

新潟県長岡地域振興局長賞

税金のかたち

長岡市立山本中学校

三年 宮島 杏理

「私が倒れても救急車は呼ばないで」

この言葉は何年か前の祖父の月命日に言われた言葉だ。祖母のことだから祖父のもとに行きたい気持ちがあるのだろう。でも、救急車を呼ぶにはお金がかかる。もし税がなかったら、助かる命も助からず、家族側も何もできなくて心が痛いだろう。そこで、税があることでおこる良い影響を考えてみた。

一つ目は、冒頭にもあるように、救急車だ。救急車で助けられた命は、数えられないほどだろう。私の命もその内の一つである。記憶にはないが、小さかったころ、個人院でみてもらっていた時、心配なことが起きたのかお医者さんが救急車を呼んだという話を聞いた。話を聞いた時、自分のことだけですごく怖くなった。でも同時に、お医者さんはもちろん、税金を払っている人がいるからこそ助けられたのだと思い、たくさんの人に助けてもらえたんだなど、感謝の気持ちも感じた。

二つ目は、救急車に繋がるが、医療費だ。私は小さい頃、

救急車で運ばれるくらい体が弱く、体調もよく崩していたため、お医者さんにかかることが多かった。待合室で待っている時、大人の患者さんが会計している時、その患者さんの金額が聞こえた。かなり高くて驚いたが、他の大人の患者さんも同じくらい高額だった。私もかかる度こんなに払ってもらっているのかと思ひ、母に申し訳ないなと思っていた。でも、母が払っていた金額は五百三十円。次に受診した時も五百三十円。薬も無料。どうしてだろうと思っていたが、税金のおかげということを知った。大人の値段、通常の値段だったら、医者にかかれず、払えず、苦しい思いをするんだと思う。身をもって税金のありがたさを感じた。

三つ目は、学校だ。これは一番税金のおかげということを感じる。授業料も税金のため、みんながお金を払わなければ授業を受けられないし、そもそも学校自体が建設されなければ、教科書も税金でまかなわれている。世界には学校で勉強できない子がいるので、勉強できる環境であること、教材・教育費もまかなわれていることには、感謝してもしきれない。部活動も、学校のグラウンドや体育館、大会やコンサート会場なども税金によって作られている。

このように、生活の中で税金はなくてはならない存在だと感じた。自分の手で納めているのは消費税だけだけど、税金の使いみちが形として見えるのは安心するようない気がする。大人になっただけで自分の手で納める税はもっと増えるので、自分が納めた税金が誰かを助けられる、支えられるという事を忘れないようにしたい。